

(単元)土佐日記

(本時のねらい)

古典の学習では, 様々な古典作品を読み味わうとともに古典文法を詳しく学び, 自分の力で古文・漢文を読み解く学習をする。1年生はその基礎となる重要な段階であるが, 生徒にとっては, 文法は文法で暗記し, 文章は文章で現代語訳を丸暗記しようとするなど, 学んだ知識が読解へとなかなか結び付かない困難な学習のようである。しかし, 文章を読むことの目的は思考力を育てることであり, 自らの生き方・社会のあり方を考え行動する力を養うために, 自分で考えて文章を読む学習に粘り強く取り組んでゆく必要があるだろう。「土佐日記」は10世紀の歌人紀貫之が自分自身の体験や心情を平易な文章で記した作品であり, 興味を持って読むことに取り組める文章である。この土佐日記をテキストとし, 文法的知識を活用して読み解く学習を行いたいと考えた。

(ICT活用方法)

紀貫之が土佐から京へ帰るまでの旅の旅程を, パワーポイントで図示する。教科書にも地図があるが, パワーポイントに載せることで矢印などの書き込みができ, より多くの情報を共有できる。また, 読解に必要な文法事項をパワーポイントで示す。必要なところで随時示すことで生徒の理解を助ける。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 10分	○前時の学習を 振り返る。紀貫 之の土佐から京 までの旅程を知 る。	○机上に文法書・古語 辞典・教科書・ノート が用意されていること を確認する。 ○土佐から京への旅が 55日もかかる危険な 船旅であること, 作者 が娘を亡くしたことな どを説明する。	○土佐から京への旅路を, パ ワーポイントで示す。	(一斉)
展開 35分	○本文を音読す る。(5分) ○3~4名のグ ループで協力し 本文を現代語訳 する。(15分)	○歴史的仮名遣いや漢 字を正確に読むように 指示する。 ○これまでに学習した 知識を活用し, 必要に 応じて古語辞典・文法 書を使って読解するこ とを指示する。		(協働)

	<p>○グループで考えた現代語訳を黒板に書く。</p> <p>○板書された現代語訳を検証する。(15分)</p>	<p>○現代語訳を板書させる。①は1班、②は2班・・・など割り振る。</p> <p>○現代語訳が適切かどうか検証させる。間違いがあればどのように訂正するか考えさせる。</p> <p>○口頭説明または書き込みで生徒の理解を支援する。</p>	<p>○読解に必要な文法事項をパワーポイントで示す。</p> <p>○黒板に書かれた現代語訳と、電子黒板とが並べて見られるようにする。</p> <p>○本文の順に従って、随時示してゆく。</p>	
まとめ 5分	○学んだことをノートにしっかりと記録する。	○「なぜそうなるのか」が大切であることを伝え、文法の知識を活用して読解することを今後も意識させる。		(個別)

(授業の様子)



パワーポイントで確認



グループ学習



解答を検証する

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

非常に活発な学習活動ができた。協働的な会話が多く交わされた。グループで現代語訳に取り組む中で疑問が生じ、それを解決する形で授業後半の現代語訳の検証・解説を行ったため、集中が途切れず、理解・定着にも繋がった。電子黒板の使用によって、必要ところでスピーディーに解説を行うことができ、教師が板書する時間やスペースを省略できた。授業において、黒板・ICT(電子黒板)・生徒机上の3つを学習に有効に用いることが重要であると考えられる。本時では黒板に生徒の現代語訳、電子黒板に重要な文法事項、机上に本文と自分自身のノートがあり、3つを並行して見ることで「自分で読む」学習を展開することができた。教師のパワーポイント作成にある程度労力が必要であるが、授業で伝えるべき要点を整理しておくことができ、授業の予習として役に立つ面があるとわかった。理解に時間のかかる生徒への手立てが課題である。個別学習の時間をできるだけ用意して辞書を引かせたり、ノートをしっかりと書かせたりする。電子黒板で進みすぎないようにすることなどが考えられるが、今後も検討していきたい。